

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

収穫を祝い、農作業の労苦を忘れる「秋忘れ」という言葉があった。秋の作業が終わり家族全員で、収穫したコメや野菜を持参して

自炊しながら、温泉で疲れを癒やした湯治を経験した人が少なくなった。最近では家族全員で農作業をする風景をほとんど見受けられない。そのためではないだろうが、農業に従事した親が農作業をできなくなった家庭は、ほとんど離農するケースが多くなった気がする。

親の農作業の姿を肌で感じ、農業の楽しさを知ったからこそ引き継がれた職業でもあるのだが、過酷な労働と収益性の悪さから衰退してしまっただけの農業の実態なのだろう。できうる限り家庭

でも体験させる事が大切ではないだろうか。現在は農業経営している家庭も少ない中、地域教育の中で可能な体験機会を与える事が食料自給率問題を考えさせることも更に大切だ。

変化する言葉の意味合いを考えよう

意味から、感謝の意を示す言葉に。「大丈夫」は、もともと立派な男性を示す言葉だったが、いまは危ないことが、安心していられる意味に。失望してぼんやりする様子を指す「ぶぜん」は腹を立て

文化庁が毎年行う「国語に関する世論調査」。時代とともに、意味合いが変わったのかと思う事が多くなった。良く使う「ありがとう」の語源は「有り難い」だが、「めったにない」「貴重な」という

ている様子の意味に。無味乾燥でつまらないことを表す「砂をかむよう」は悔しくてたまらない様子の意味に。一時しのぎを示す「姑息な」はひきょうな意味に。毎年多くのコラムが、政治家や知識人

が日常の出来事で平然と使う言葉が本当に正しいのかを問うのだが、せめて未来を語る職業に携わる方々には、熱い言葉で、意味が理解できる言葉で語ってほしいものだ。

コロナの感染拡大が気掛かりだが、入国制限の緩和で今年の冬のシーズンは多くの外国人旅行者が大北地域を訪れるのだろう。「旅する力」の著者・沢木耕太郎さんは、旅する目的について「大事なものは行く過程で、何を感ぜられたか。」「目的地に着く事よりも、行きかう人をどう感受できたか」ということの方



秋の穏やかな日々が「秋忘れ」を誘うようだ

がはるかに大切」と記している。訪れる人々は、異文化に生きる現地の人々との交流を望むに違いない。観光関係者だけでなく、地域住民一体になった取り組みが求められているに違いない。
(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)